

案件概要書

2024 年 4 月 23 日

1. 基本情報

- (1) 国名： マダガスカル共和国（以下、マダガスカルという。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名： アンタナナリボ（人口約 300 万人）
- (3) 案件名： アンタナナリボ都市圏道路網整備計画（中環状西部区間）
（Road Network Development of Western Section of Roclade Project towards Urban Development in Antananarivo）
- (4) 計画の要約： 本計画は、首都アンタナナリボ市内における中環状道路の西部延伸区間整備をすることにより、アンタナナリボ市内における人の移動や物流の効率化・増強を図り、同地域及び国内全体における経済成長に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

マダガスカルは、鉱物・石油資源や水産資源に恵まれ、アジアとアフリカを繋ぐ主要な海洋航路上の要衝に位置しており、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現における重要なパートナーである。また、日本企業のアフリカ進出のゲートウェイとして今後重要な役割を果たし得ることが期待されている。同国では、レアメタル等の鉱物資源が豊富であり、特にニッケルについては、日系企業が大規模な精錬事業を行っており、我が国にとって同国は最大のニッケル輸入相手国となっている。さらに、近年では同国の西海岸地域で石油・天然ガスの埋蔵が報告される等、我が国の資源戦略上、重要な国の一つとなっており、我が国が同国の経済発展と社会の安定に貢献し、本計画を通じて都市交通の円滑化及び物流機能の活性化を図ることは、高い外交的意義を有する。

また同国は、これまで国連の安保理改革や各種国際選挙等の国際場裡において我が国の立場を支持するなど、我が国と重要な協力関係にあり、同国との良好な二国間関係を強化することは極めて重要である。本計画は、同国の開発課題・開発政策及び我が国の協力方針に合致し、経済開発と社会開発のバランスの取れた持続的発展への支援に貢献するものであり、SDGs 目標 9「インフラ、産業化、イノベーション」、11「持続可能な都市」の実現に資するものであり、事業実施を支援する必要性は高い。

- (2) 当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け
マダガスカルは、人口 2,842 万人を擁し、一人当たり国民総所得は 510 ドルの世界最貧国のひとつである（2022 年、世銀）。内陸に位置する首都アンタナナリボは、

人口約 300 万人を有する政治経済の中心地であり、第 2 の都市トアマシナは、同国内最大の商業港を擁する人口約 50 万人の都市である。これら 2 都市と、両市を結ぶ鉄道と全長 369 キロメートルの国道 2 号線及びそれらの沿線エリアは、同国の成長を牽引する基幹都市・幹線であり、TaToM（アンタナナリボ・トアマシナ経済都市軸：Tananarive-Toamasina, Madagascar）地域と呼ばれている。我が国は、この TaToM 地域の包摂的かつ持続的な経済成長を支援すべく、開発計画調査型技術協力「アンタナナリボ・トアマシナ経済都市軸（TaToM）総合開発計画策定プロジェクト」（2016-2019 年）を実施し、TaToM の総合開発計画の策定を支援した。

同計画の中でも特にアンタナナリボ市の開発計画の実施は急務となっている。同市の人口は、現在の約 300 万人から 2033 年には約 420 万人に増加すると予測されており、急激な都市化対策が必要で、そのうち特に道路インフラ整備は最大の課題の一つとなっている。同市中心部は、東部トアマシナ港（国道 2 号線）だけでなく、北部マジュンガ港（国道 4 号線）、中央部大都市のアンチラベ、フィアナランツを経て南部トゥリアラ港（国道 7 号線）、西部の新都市開発地域（国道 1 号線）と連結するが、市内道路網が未整備であるため市内各所で激しい渋滞が発生しており、結果として上述の各国道を利用した都市間移動にも負の影響を及ぼしている。特に、①昨今土地開発が進んでいる中環状道路上のアンクルジャーノ交差点から西部に、国道 4 号線、国道 1 号線と順に連結可能となる西部延伸道路の整備が急務である。また、②市内北東部において開発が進んでいる工業地帯に続く国道 3 号線と、市内とトアマシナ港間の物流輸送を円滑にするための国道 2 号線を外環状で連結するバイパス整備も課題となっている。さらに、③人口増加が顕著な市南部から中心部への交通渋滞を緩和するための道路拡幅や BRT（Bus Rapid Transit）導入等の整備も施策案として挙げられている。

上記①～③の 3 区間（うち、開発事業としては計 7 事業）の道路インフラ整備は、同国政府が TaToM 総合開発計画の中で、同市での優先事業として掲げており、これら優先事業を含む都市圏・都市開発計画（PUDI）は 2020 年 3 月に閣議承認済みで、都市交通の円滑化及び物流機能活性化を図ることで、都市開発にも大きく貢献できることが期待される。また、都市開発を促進することで、民間企業投資にも大きな弾みになり、中長期的な経済発展につながることが期待されている。このような状況の中、上述 3 区間（7 事業）のうち、特に優先度の高い事業を同国政府と共に検討したところ、具体的な計画として、市内渋滞が特に激しい中環状道路上に位置する西部延伸道路の整備（上述①）の優先度が高いと判明した。なお、同国は国家開発計画「マダガスカル新興計画」（2019-2023）において、交通インフラ整備による経済発展を掲げており、本事業は同計画にも合致する。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

- ア) アンクルジャーノ交差点からイコパ川渡河新設橋梁部分（マキフライオーバー）までを結ぶ約 3.5 km の中環状道路西部延伸区間整備。（交差点立体化 2 箇所）

所、新設道路区間 2.0 km、既設道路拡幅区間 1.5 km)

イ) コンサルティング・サービス(詳細設計、入札補助、施工監理、環境社会配慮、橋梁維持管理に関わるソフトコンポーネント(点検支援、点検・補修マニュアル作成)等)

② 期待される開発効果: 既設道路の年平均日交通量: 15,000 台/日(基準値)→8,000 台/日(目標値(同左))、新設道路の年平均日交通量: 22,000 台/日(目標値(同左))により、アンタナナリボ市内における交通渋滞の緩和、交通公害・大気汚染の緩和、対象地域における人々の生活状況改善、物流・人の流れの改善による経済・産業活性化への貢献が期待される。

③ 借入人: マダガスカル政府

④ 計画実施機関/実施体制: 公共事業省 (Ministry of Public Works)・道路公社 (Road Agency)

⑤ 他機関との連携・役割分担: マキフライオーバー建設についてアフリカ経済開発アラブ銀行(BADEA)が支援しているが、本事業とマキフライオーバーとの接続が必要なため、BADEA 側支援の進捗等含めて、協力準備調査での確認が必要。

⑥ 運営/維持管理体制: 公共事業省が主管官庁、道路公社が実施機関として運営/維持管理を担う予定だが、詳細は協力準備調査にて確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類: A

- ジェンダー分類: GI (ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

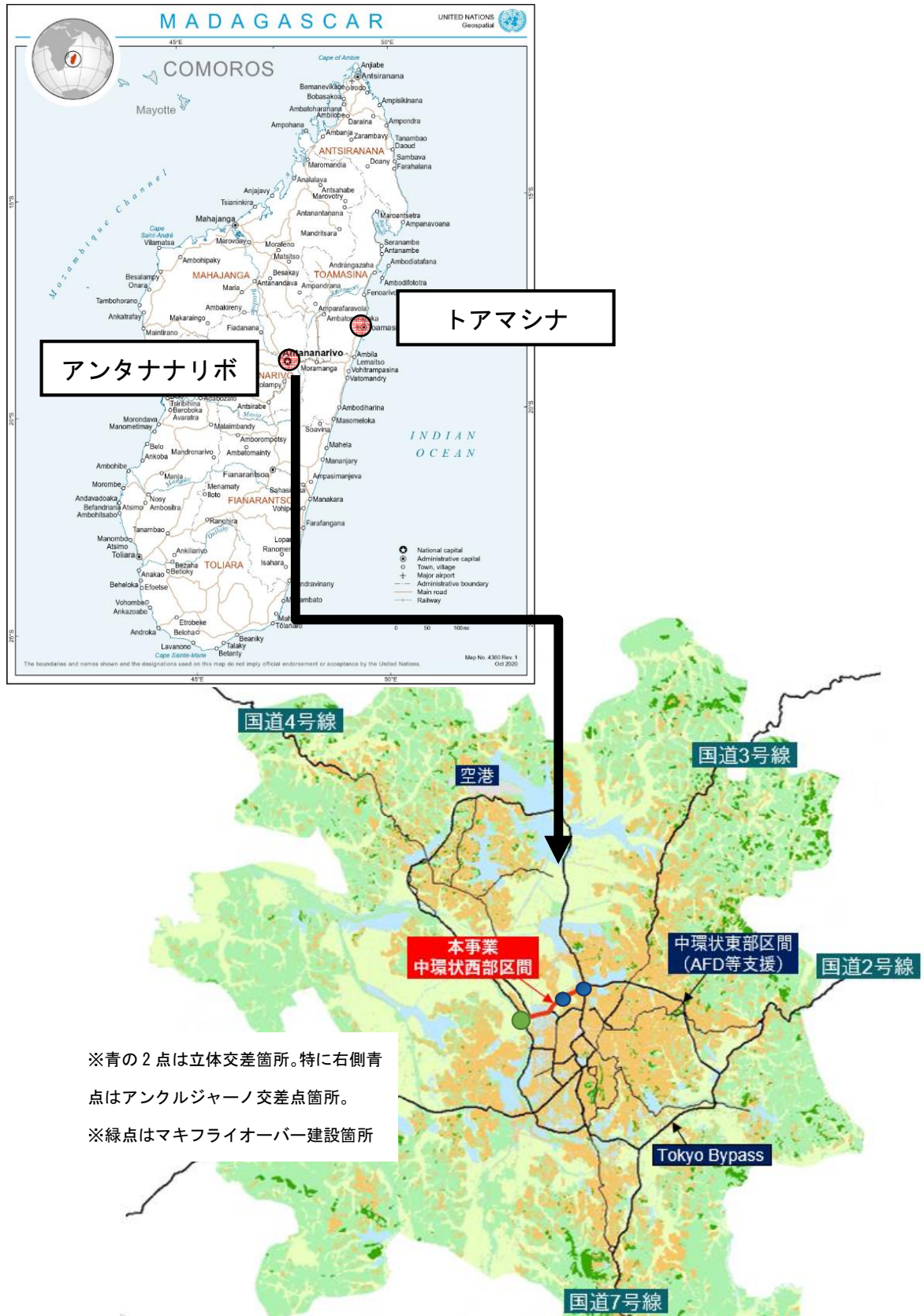
モロッコ有償資金協力「高速道路建設事業」(評価年度: 2007 年)においては、用地取得に伴う地域分断が発生し、追加横断施設の建設等の対策が必要となった。本事業においてはかかる教訓を生かし、協力準備調査において、事業対象地域住民への情報開示および十分な事前協議を通じて住民の理解を得ていく。

また、タンザニア無償資金協力「第三次タザラ交差点改善計画」(評価年度: 2021 年)では、渋滞が集中する市街地で工事が計画されていたことから、通行車両や地域住民の安全確保、地域住民の近隣の病院・店舗等の円滑な利用のため、施工業者は①交差点内で片側 2 車線の車道と両側に幅 3 メートルの歩道を確保、②高さ制限を超える車両の交差点侵入に備えた衝突防止の門を設置、③交通警察官と交通誘導員を 24 時間体制で配置し交通管理を実施、という 3 点の工夫を行い、無事故且つ工期の遅延なく完工した。本事業も市街地での工事が想定されることから、上記案件の経験を踏まえ、施工期間中に既存交通に与える影響を最小化する施策を検討する。

以上

[別添資料] アンタナナリボ都市圏道路網整備計画(中環状西部区間) 地図

● [別添資料] アンタナナリボ都市圏道路網整備計画（中環状西部区間） 地図



出典：JICA「アンタナナリボ市都市開発のための道路網整備に係る情報収集・確認調査」